

いわみざわ

行 人 地
駐 集 班
発 務 報
見 編 業 務
岩 司 令 業 務 報
廣 告 報

今月の行事

6日・岩見沢市観光おどり
7日・全道銃剣道大会
20日・持久走大会
28日・銃剣道南空地大会
29日・銃剣道南空地大会
31日・団集中訓練

群集中野営終る

群は、七月八日から二十三日の間、矢白別及び然別演習場において、群集中野営訓練を実施した。岩見沢―美幌―矢白別(池田)―然別と七五〇キロに及ぶ長距離の移動、矢白別、池田、然別の三演習場にまたがる転戦等、群としても初の試みであつたが、長期間、長距離移動を記録した群集中野営訓練は、無事故とともに多大の成果を修めた。

現地において指導する
統裁官の群長、三科長



コルゲートメタルの指導所を
構築する第三三七中隊

訓練当初群長は、

- 一、精一杯やろう。
- 一、思い出をつくらう。

と訓辞されたが、地域の特性と広大な地積を利用した中隊等の厳しかつた訓練、道東ノサップにおける精神教育、あるいは、矢白別演習場のカ、ブヨ、アブ、名にしおうエヒノコックス、然別の霧、池田の魚など、これらの一つ一つが隊員の胸にいつまでも思い出となつて焼きつけられていることであらう。

群集中野営点描

第三三七中隊 小笠原三尉

延々七五〇キロに及ぶ長距離移動を経て、矢白別演習場にはじまる群集中野営も終り、群は次の目標に向つて前進し続けている。

この群集中野営における第三三七中隊の訓練を隊員の声を通じて紹介する。

七月十日―七月十一日

C/M製構築物(FDC)機械力(油圧シヨベル、ドーザ)を掘開、埋もどして使用しての訓練である。

隊員A「FDCつて何だい：：」
隊員B「何だか知らないけどヨ、こんなにガッチリ作るんじやヨッポドえらい人が寝るんだべエ。」

七月十二日

木材による掘開式M掩体の構築。やはり機械力を使用して省力化と構築時間の短縮を図っている。薄暮平頂覆の鉄線に引つかかつた隊員

「夜になつて見えなくなつてくるのに、何で光つた鉄線を使わねえんだ。」
「ブヨにやられてテトラポットのようになつた分隊長」

「なましは扱い易いし、偽装の効果を考えているんだ。」
「おアコをさすりながら隊員A「ふうくん。」」

七月十四日 地雷原の敷設

経始、記録、標識、設置、各班の行動を巡回して訓練して行く班訓練である。

分隊長「安全限界線の撤収！」
隊員A「これ撤収しちやつたら、わな線に引つかかつて危ねえんじやないですか？」
分隊長「？！？」

七月十六日 精神教育

北方領土の現状を眼で見るため納沙布岬に行く。

隊員A「望郷の家の望遠鏡で、B国の監視塔をのぞいたらヨむこうからのぞいてやがんの。」
「三編つてのは近いヤナー」

隊員B「それにしてもB国のやることはきたねえヤナー」

隊員A「シート。余り大きな声を出すと聞こえちゃうゾ」

七月十七日 移動

天幕をたゝんで、然別演習場に転進。

七月十八日―十九日 防衛支援
激しい雨と、ブヨの群れとぶ中の機械力を投入した障害の構築

地雷原の敷設、掩蓋構築物の構築と、終夜にわたる訓練。

七月二十日―二十一日 攻撃支援(小隊検閲)

防衛から攻撃に移転した1の動きに伴い、攻撃支援に移行したPtは、Pt長以下地形全く未知の「生地」の訓練。おまけに漆黒の闇と深い霧にまつまれて方向すら判らない状況。自己の位置さえ判らないことがいかに不安であるか身をもつて体験した訓練だつた。

両訓練ともに一先も見えず、敵前夜間の無声指揮であり、小隊全部を見れる立場になかつたので各分隊長を紹介して隊員の声にかえる。

一分隊長(T二曹) 経験は浅いが人柄で分隊をガッチリ掌握し沈着で確実な指揮振りは、将来の名分隊長の片鱗を見せてくれた。

二分隊長(M二曹) 夜間状況下では普段の元気を指揮振りも発揮出来ず、久方振りに静かであつたが、薄明の攻撃開始と共に俄然本来の姿に戻り眠気もヌレぬずみ吹き飛ば奮闘振りであつた。

三分隊長(M二曹) いつも教範を片手にしている勉強家であり余る体力にものをいわせて隊員を引つ張つていく姿が眼に浮かぶよりだつた。

以上三三七施設中隊の訓練を隊員の姿を借りて紹介したが、中隊長も、小隊長も夫々中隊における最後の訓練であり、小隊隊曹以下口には出さないが一生懸命やろうとする気迫が随所に見られ、大変気持の良い訓練だつたと思う。

「状況終り」の時の隊員の顔に終夜の疲労とやり遂げた満足感を見たととき、彼等は幸せだなあ。としみじみ思つた。

選挙速報・別海タイムス??

駐とん地を後にして平常業務から解放され、各中隊は日夜生き生きとして訓練に励んでいる時、あ

たかも参院選挙、忙中閑を活用しての情報訓練(各党派別や地区当選数)訓練が三科長統裁のもと

演習 秋強

！考 え す ぎ??????

貝殻、水晶島等の 齒舞 諸島を目前にしての精神教育、各中隊毎計画実施した北方領土見学での一コマ。

通りすがりの漁港で、得体の知れぬゴムの塊りのようなものを発見、とり囲んでケンケンガタガタ

A 幹部「これはオトリだヨ」
B 幹部「いや、動物だヨ、血が出ています」
A 幹部「血のニオイをしたベンキダろうさ」
通りがかつた漁師「なにさいつてんだ、こりや、イルカだべサ」
一同「ダーアツ:」

エヒノコックス談

別海に怖いものあり、エヒノコックス、衛生班もこれの予防に神経をとがらすことしきり、ある雨上りの不寝番、草原の中を懐中電灯でてらすとキラリツと光るものがあつた、手をのばすとスーウツと向うへ行く、寄るとスーウツ、寄つても寄つてもつかめない、翌朝先聲いわく「エヒノコックス病原体だよ」といわれてゾー、このキャネ、毎夜残飯をたべに来る常連とか??

別海カントリー?

別称、別海ゴルフ、今流行のバット・バット・ゴルフよろしく短いコースのホールを狙うだけの単純なもの、クラブは丸太だけにやつてみると意外にむつかしく、コース上に車のわだち、草の根、砂山などにテコずる仕末、寸暇をおしんで練習し、「先生」の称号で呼ばれる北村士長、彼を探すときはゴルフ場に行け、といわれる程熱の入れ方は相当なものであつた

伏兵アリ

宿営地建設の総仕上げ、便所構築がスバラシイ出来ばえて完成。ホット一息「それでは一番乗り」とばかり某三曹、セミヌードになつた途端、別海名物のブヨに一発二発、大小の出口付近は見る間にブヨ一、大きくソダツタ「マイ、サン」に一喜一憂、野営間、朝な夕なに持て余すことしきりとか

重度身障者の海浜支援

今年も海が見れたと

およろこび

群は、主力をもつて群集中野営訓練を実施しつつ、残留者の一部をもつて、重度身体障害者施設(岩見沢市、緑成園)の海浜支援を支援隊長、曾田二尉(本部中隊)以下十五名の隊員が、岩見沢一静内において、器材の輸送、トランスポート、レクリエーション指導と巾広く支援を実施した。

年に一度の海浜遊びが出来るとあつて、園生はもちろん、職員達は大喜びだつたが、特に今年は少ない人員の支援隊が照りつける太陽の下で、黙々と汗を流し一生懸命作業をしている姿を見て、ほんとうに感動がさがる思ひです、と関係者は感激していました



海を見つけてやる支援隊員

「若妻会」が駐とん地を見学

七月十二日、岩見沢市農協若妻会、五十名が部隊を訪問、営内生活及び施設を見学した。

部隊に到着後、駐とん地司令のユーモアあふれる歓迎の言葉に、ちよびり緊張していた気分もすつかりほぐれ管内班、資料館等を案内した広報官に次々と質問、そこはやはり若い奥さん達、洗濯はどうしているのですか? そうじは隊員さんがするの? うちの旦那にも見習らわせよう、と大はしやぎ、そして施設の整備された環境に感心しながら離隊した。

人生計画を立てる 意義について

我々は、この世に生を受けて以来、長い人生を過ごす上で計画は人それぞれが持つていることと思ひます、それは計画などという大げさなものではなく、単なる夢であつたり願ひであつたり、かもしれません。

しかし、それは長い一生の一つの段階を消化していく上での目標であると思ひます、例えば、学校を卒業し自己の職業を選択しなればならない時、子供の頃からの夢であつた職業の分野に進める人は少ないでしょう、それは夢と現実の違いから計画を変更せざるを得ないのです、その時点で又その後の人生計画を立てねばならないでしょう、さて陸曹としての立場での人生計画はどうでしょう! 陸曹は、自分の

一生を自衛隊という集団に身を置くことによりその人生計画は自衛隊というものが基調となり計画が立てられると思ひます、例えば、昇任、昇給、異動などです。

これらを考慮し色々な計画が立てられそれは先に述べた様に、一つの段階を消化する目標となるのです、その内容はいろいろあるでしょう、それはなんでもよいのです、要するにそれがその人にとつて毎日の生活を過ごす上での目標となればよいのです、最後に昔からよく言われることわざに、棒ほど願つて針ほどかなり、という言葉があります、計画はあくまで計画です、遠大な計画を立てその計画の七割まではいかなくても、五割は達成できる様に努力してみましよう。

三二施留甲 後藤二曹

駐とん地整備始まる

岩見沢駐とん地では、主要道路の舗装工事を実施しております、このため道路状況が悪く、通行される皆さんに御迷惑をかけておりますが、特に重車両の往来がひんばんですので通行される際は安全をたしかめて下さい。

編集後記

暑さも一段と厳しくなり、少々バテ気味な気配ですが、このよううな時頭がポーとしていて、おもうわぬ大事故を起してしまいがちです、充分なすい眼と栄養をとり、健康管理に注意されますよう。

司令業務班 西畑